



動物病院ニュースレター

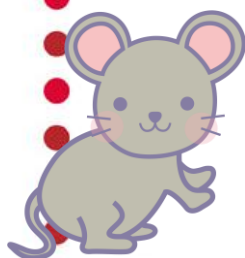
2020年1月



新年あけましておめでとうございます！

2020年を迎え、
あっという間に東京オリンピック開催年になりました。

まだまだ寒い日が続きますので、
年明けから体調を崩さないよう
飼い主様も、ワンちゃん、猫ちゃんも
しっかりと体調管理をしていきましょう！



ペットとお出かけの多いホリデーシーズンですね！

飼い主の皆さん、「ペチケツ」はできてますか？

※ペチケツ：ペットのエチケットのこと。米国ワシントンポスト掲載記事より

旅は心身ともに開放的な気分にしてくれます。
日常から離れて、大切なパートナーたちと心ゆくまでリラックスできるに違いありません。
でも、そんなときでも忘れてならないのが、旅行中のマナーをしっかりと守るということ。
モラルある振る舞いを貫き通すことが大切です。
公共の場所でのマナーを守って、周囲から感心される犬連れ旅行上級者になりましょう！

宿泊施設でのマナー

(1) 館内でブラッシングはNG

館内共同スペースはもちろんのこと、客室内であろうともブラッシングをしてはいけません。抜け毛は拡散するので、目に見えないところで汚れやゴミの原因を増やすことになります。

(2) 人間用の食器は使わない

犬も食堂に入れる宿泊施設でも、人間用の食事を与えたり、食器を使用したりしてはいけません。衛生面という問題もありますが、人と犬をきちんと区別するという意識のうえでも大切です。

(3) 館内・指定場所以外ではリードを外さない

ほかの利用者がいようとまいと、OKとされている場所以外でノーリードにしてはいけません。「うちのコは大丈夫だから」という過信は禁物です。

(4) 排泄は客室内のトイレか屋外で

館内で排泄すると匂いが残り、ほかの犬も同じところにしかねません。ふとした油断から愛犬の排泄に気がつかないこともあるので、必ず愛犬と一緒に利用した場所はチェックするようにしましょう。

5) バスルームで犬を洗わない

抜け毛で配水管が詰まる原因にもなりますので、指定された場所以外で犬を洗わないこと。どうしても洗わなければならない状況の場合は、必ずスタッフに申し出るようにしましょう。

(6) ほかの犬いきなり近づけない

初めて会った犬とコミュニケーションをはかろうと、愛犬をほかの犬いきなり近づけるのは危険です。お互いの様子を冷静に観察しながら、少しずつ挨拶をさせることから始めてください。

カフェやレストランでのマナー

今や観光地には犬連れOKのカフェやレストランがあるのが当たり前の時代です。旅行途中でホッとひと息つける場所として愛犬家に重宝がられています。ペットOKとはいっても、利用している人たちはさまざまです。

ペットを好まない人もいるので、ほかのお客様に迷惑をかけない気配りが求められます。

(1) 犬は足元でおとなしく待たせる

会話に夢中になっていたりすると、犬の行動に目が行かなくなりがちなので注意。犬はできるだけ足元でフセの状態待たせるのが基本です。

決してテーブルなどに足をかけさせてはいけません。お店によってはイスに乗せてもいいところがありますが、マナーとしてカフェマットやタオルなどを敷くようにしましょう。

(2) 人間の食べ物を与える・食器を利用するはNG

人間の食器から食べ物をあげることは絶対にさせないでください。
犬に何かあげたくなったら、あらかじめ用意した犬用のおやつをあげましょう。

また、ワンちゃんメニューを用意してあるところもあるので、そのなかから注文してみるのもいいでしょう。

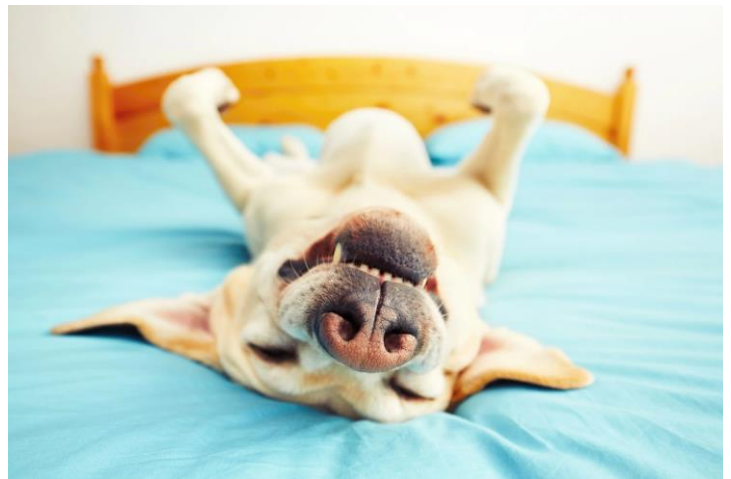
(3) 無駄吠えをさせないように

みんな楽しくお茶や食事を楽しんでいるので、店内では吠えることは避けたいもの。
会話の妨げにもなりますし、ほかの犬に吠え続けているとケンカにも発展しかねません。
吠えることをやめさせるコントロール法を身につけておきましょう。



お出かけの際、必要なアイテム

- ・フード
- ・食器・水入れ
- ・エチケットグッズ
(袋、トイレトペーパーなど)
- ・リード
- ・迷子札
- ・マナーパンツ
- ・救急箱
- ・移動用ゲージ
- ・タオル
- ・毛布・フリース
- ・グルーミング道具 など



学べるワンニャン語クイズ



問題1：ワンちゃんのいたずらのあとを見つけて、叱ったらおとなしくなった。どうして？

(答えは次のページです。)

- ① ふてくされている
- ② 落ち込んで反省している
- ③ とまどっている



問題2：猫ちゃんが夜更けに猛スピードで走り回ったり飛び乗ったりの動き。どんな気持ち？

(答えは次のページ下です。)

- ① 夜行性だから
- ② ストレスがたまっていた
- ③ 熟睡したら危険な気がするから警戒中



プチ情報

売り上げの2%が保護猫のために寄付される「ネコ専用こたつ付きみかん」

紀州うめどりや和歌山グルメのネットショップ「チキンナカタ」を運営する有限会社中田鶏肉店は、

日本初となるネコ専用こたつ付きみかん「猫と、こたつと、思い出みかん」の正式販売を開始した。

「猫と、こたつと、思い出みかん」は店主が猫好きであったことから、猫好きのためのみかんがあってもよいのではないかという想いで企画したオリジナルのみかん。

売り上げの2%が保護猫のために寄付され、本年度はすでに予約だけで1,300箱の申込みがあるという。

”こたつに猫”という組み合わせは、

”こたつにみかん”とならぶ冬の風物詩だが、

最近では家にこたつがない人も増えている。

出展 <https://gunosy.com//>



撮影した写真はハッシュタグ「#猫とこたつと思い出みかん」をつけてInstagramまたはTwitterで投稿すれば、1投稿につき2円が、こちらで保護猫のために寄付される。

回使用する「土生（はぶ）みかん」「天田みかん」は、和歌山の有名な有田みかんにひけをとらない味の濃いみかん。

ただ有田みかんに比べるとまだまだ知名度が低いため、一生懸命育てた農家さんたちが望むような価格で買い取ってもらえなかったり、大きな流通に乗りにくいという課題が今なおあるという。

この「猫と、こたつと、思い出みかん」を通じて、届いたとき、箱を開けたあと、そして食べたときそれぞれに喜びのある「一粒で3度おいしいみかん」を味わってもらい、愛情たっぷりのみかんを育てている和歌山の農家さんたちに貢献するという。

答え

問題 1：③ 叱っているのは現行犯のときだけです。いたずらをしている最中ではなく、いたずらをしたあとに言われても理解ができず、飼い主さんを嫌いになることもあるので注意です。

問題 2：① 猫ちゃんは夜行性なので体内時計が正常な証拠です。飼い主さんが困るほどの場合は、寝る前に15分ほど猫じゃらしなどで体を動かしてあげましょう。そうすれば猫ちゃんは疲れて朝まで眠るはずですよ。

保護された肥満のビーグル犬が、飼い主と一緒にダイエットに励む姿が人々に元気を与えている。

飼い主は身体が引き締まっていく過程や日々のトレーニングの様子を Instagram に投稿しており、フォロワーはさらに増加しているという。



出典 <https://news.livedoor.com/>

米アリゾナ州フェニックスの動物保護施設「アリゾナ・ビーグル・レスキュー」に5月末、オスのビーグル犬“ウルフギャング (Wolfgang)” が保護された。

体重が 40 キロ超 (90 ポンド) もあり歩くのもやっとだったが、同市在住のエリン・マクマナスさん (Erin McManus) とチャド・シャッツさん (Chad Schatz) に引き取られ、必死にダイエットに励んできた。

現在の体重は約 28 キロ (62 ポンド)。半年間で約 12 キロの減量に成功したものの、オスのビーグル犬の標準体重は約 11 キロ (25 ポンド) で、ウルフギャングにはまだ 17 キロの減量が必要なのだ。

エリンさんはウルフギャングについて、次のように語っている。

「ウルフギャングが我が家にやって来た時は、身体が大きすぎてドッグドアを通ることもできず、隣の家郵便受けまで歩くのがやっとでした。

でも今では、1 回の散歩で 20 分ほど歩くことができるようになりました。またプールで泳いだり、週に 1 回はリハビリセンターに行き、水を張ったトレッドミルでエクササイズをしています。

不思議なことに、エクササイズ中は必ずお気に入りのおもちゃを口にくわえるんですよ。今のお気に入りのユニコーンで、運動が終わるまでくわえ続けます。1 人よりも友達と一緒に運動したい人がいるように、ウルフギャングもおもちゃを心のよりどころとしているのかもしれないね。」

現在は 1 週間に約 450 グラム (1 ポンド) ずつ体重が減っているというウルフギャング。

減量が成功している理由は手作りの食事にもあるようで、エリンさんは「現在は 600 キロカロリーダイエットに挑戦をしています。脂肪が少ないターキーをベースにサプリを混ぜ込み、野菜をたっぷり加えたものを与えているんですよ」と明かした。

プチ情報

作物を荒らす猿除けのため、飼い犬をトラ柄にペイントした農家

日本では田畑の作物を荒らす野生動物を追い払うために昔からカカシを使ってきたが、

このほどインドで猿から作物を守るため、飼い犬にちょっとした工夫を凝らしたことが話題になっている。

これが猿を追い払うのに成功したため村中で流行り始めているようだ。

インドのカルナータカ州ナルル村で農家をしているスリカンス・ゴウダさんは自分達でコーヒーなどを栽培しているが、野生の猿に荒らされていることに頭を悩ませていた。

人間の姿を見ても恐れることのない猿に、トラのぬいぐるみを使って追い払っていたようだ。しかし猿はすぐにトラではないことに気づいてしまい、あまり効果がなかった。そこで猿が本物のトラがいると見間違えそうになるものを思いついた。

飼い犬の“ブルブル (Bulbul)” にトラ柄の模様をペイントしたのだ。

ラブラドル・レトリバーと思われるブルブルは、クリーム色の身体に黒の縞模様が描かれたが、スリカンスさんによるとトラに扮したブルブルの猿除け効果について次のように語った。

「畑に毎日朝夕2回、ブルブルを連れて行くのですが、猿がブルブルを見て逃げていくのを目にしました。それ以来、猿は私の農地に来なくなりました。」

さらにスリカンスさんの娘も、

「以前は猿による被害のためコーヒーの収穫に大きなダメージがありました。猿を脅すためにブルブルをトラ模様にするというのは父のアイデアでした。今では村のみんなが父のアイデアに感謝して同じように犬を使って猿を追い払っています」と明かしている。

このスリカンスさんのアイデアはSNS上で話題となり、

「猿を殺せと命じた州政府よりも賢い方法だと思うよ」

「猿は今、対策会議を開いている頃なんじゃない？」

「犬に虎のような服を着せたらどう？」といった意見があがっている。



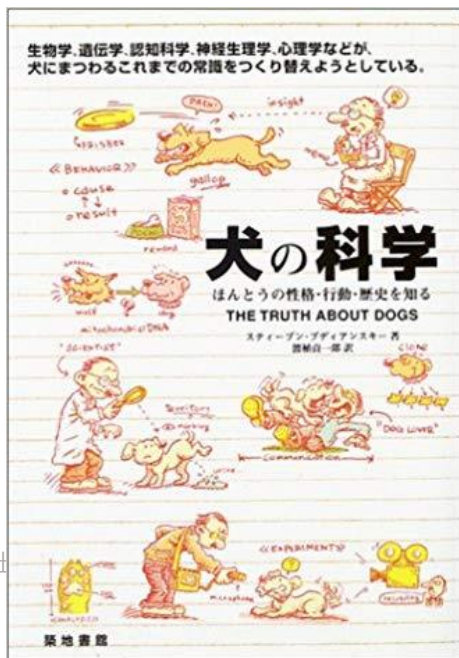
出典 <https://news.livedoor.com/>



本の広場

犬の科学—ほんとうの性格・行動・歴史を知る

スティーブン ブディアン著



犬について、飼い主さんとしては印象や体験からわかることが多いわけですが、科学的な研究結果を元にした話を読むことで、犬に対する理解が深まります。

なぜ犬は吠えるのか、なぜ粗相を叱ってはいけないのかななどの解答を知ることができます。

犬の本来の行動学的な側面を知ること、愛犬の普段と異なる変化に気づいたり、役に立つ情報が満載です。

自分はちゃんと犬を躾ける事が出来ている、と自認する飼い主さんも、一読される事をお勧めします。

また犬を飼うのは初めてで戸惑ってばかりの方にもおすすめです。

本を読みながら、犬の本質を学び、

楽しいパートナーライフを満喫できるようになります。

愛犬家なら読んでおくべき本。

犬が人間に近づいたのではなく、

人間が犬へ寄り添うための 1 冊です。